

令和元年度西部支部総会 支部長就任挨拶

橋本 州史

このたび、日本船舶海洋工学会西部支部長を務めることになりました長崎大学大学院工学研究科(船舶海洋人材育成座)の橋本州史です。40年9ヶ月間の企業(三菱重工業)での勤務に引き続き、本年から長崎大学での活動を始めました。企業勤務時代は、オイルタンカー主体の事業運営から船種を転換して多種多様な専用船の建造へ移行する中で、主として造船設計部門で開発・設計業務に従事し、西部支部の皆様には大変お世話になりました。今後とも、宜しくお願いいたします。

前支部長の土井先生ならびに運営に関わられた方々におかれては、西部支部の事業運営、活性化に多大なご尽力をいただきました。心より御礼申し上げます。

西部支部の特徴は、対象とする活動地域が広く、かつ、船舶の建造場所を多く抱え、約1,000名の会員の多くが船舶海洋産業の国際競争最前線に立っていることです。西部支部はこのような特徴に基づき、歴史的にも産業界の実務に貢献する研究開発活動を積極的に推進すると同時に、総会、講演会、研究会、シンポジウムやセミナー、ワークショップ、特別講演会や見学会の開催、メールマガジンの発行等の様々な活動を継続的に展開し、会員同士の円滑な交流を推進してきました。この成果は、貴重な技術蓄積および人的資産となっており、これまでの先輩諸氏のご尽力に敬意を表します。

西部支部の目的は、「支部会員の相互の協力により、地域の学会活動を主体性を持って行うことにより、船舶及び海洋工学に関する学術、技術の進歩発展と教育への貢献を計ること」とされています。令和時代を迎え、船舶海洋工学を取り巻く各種技術環境も、会員多数が所属する造船事業の環境も過去に経験したことのないスピードとインパクトで変貌しています。日本船舶海洋工学会、特に西部支部には、これまで蓄積してきた船舶海洋技術全般の再評価とデジタル時代に即応した研究開発、人材育成手法を含む新しい船舶海洋工学の創出が求められていると感じています。

船舶海洋技術は、狭義の船舶関連技術に留まらず、広く海洋空間利用技術を扱う大きな技術領域へ発展させることができるポテンシャルを持っていますが、このためには、蓄積してきた技術の保持及び高度化と同時に、新技術領域を広く活用することにより、造船技術を踏み台にした応用範囲の拡大を両立させることが必須です。

支部活動を通して、会員が問題意識を共有し、独創的な研究を学会が評価し、得られた成果を企業活動や社会全般に還元することにより、この目的は達成されると思います。

西部支部の活動が、ボランティアとして取り組まれている多くの会員の方々のご尽力の上に成り立っていることを常に念頭に置き、会員全員がメリットを享受でき、かつ、自信とプライドを持って船舶海洋技術開発に関与し、学会活動にも参加いただけるような、親近感のある信頼される西部支部を目指したいと思います。

今年は、三学協会が統合されてから14年目となります。三学協会の統合により、船舶海洋工学の研究開発分野において日本全体の力を統合することができる体制ができたことに対して、先輩方のご尽力に敬意を表すると同時に、これを一歩進めて、日本マリンエンジニアリング学会および日本航海学会の海事三学会との連携も一層推進してゆきたいと思います。このことが、厳しい国際競争を闘っている日本の海事クラスター全体の連携強化にも繋がると考えています。

時代の変化を先取りし、社会や会員のニーズに応えられる学会支部を目指し、会員各位のご意見に耳を傾けつつ、運営委員の皆様と共に西部支部の発展と円滑な運営に努めてまいります。

末筆ではございますが、西部支部の会員の皆様のご支援をいただきながら、支部の発展に微力ながら尽くす所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

